

ψ
 ψ
 ψ
 ψ
 ψ
 ψ
 ψ



執筆者
@短信

令和 6 年 1 月 1 日。1 年の始まり。16 時 10 分、スマホがいつせいに鳴り響く。そしてこれまでに体験したことのない大きな揺れに襲われた。震度 7。大津波警報が発生される。2 回目の大きな揺れで動くことができず、道路に座り込んでいた。今何が起きたのか。起きているのか。眼の前の光景と地面の揺れに思考が停止する。自分は夫と二人で、次女夫の実家から自宅に帰ろうとして屋外に出たところだった。

父が自分の身を呈して 教えてくれたことⅢ

元旦の能登半島地震から2ヶ月がたちました。30年余り前、反原発の集まりでよ

「女子 3 人で野シッコしました、人のいないところに行って雪を掘って、、、。1 人がしてる時、2 人は壁になってガードして、かわり交代でおそろえないように、ってことも注意していました」ほんとにリアルな、こ

本文では、震災を経て、子ども食堂としてどのような取り組みをしているのかについてご報告したいと思います。

馬渡の眼
P165～

乾 京子 新連載

はじめましてのご挨拶

今回、初めての投稿です。マンションで10年、引っ越して自宅で30年、毎週木曜日の3時半から7時、「こども文庫」(まあ、本のある遊び場とでも申しましょうか?)をしています。この間、いろんな子どもたちや、本や、大人たちとの出会いがありました。ちいさな事件や大きな成長の場面もありました。このマガジンの常連さんからも「そんな文庫の話、書いてみたら?」と勧められながら、なかなか踏み出せませんでした。このお正月、能登の地震から、(何が起るかわからないなあ。)そう思って、文庫の日誌を広げていたら、いろんな子どもたちの顔が浮かんできました。そんな顔を思い出しながら、これからお手紙を書いてみようと思います。どうなりますか?いつまで続くかわかりませんが、お付き合いいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

じゃりんこ文庫
P334～

山岸 若菜

前回の短信で、訪問看護に必要にせまられてチョコボールを買っているのに、エンゼルが出たためしがない!と書きましたが、その直後に銀のエンゼルが出ました!!でも、銀のエンゼルって5枚も集めないともらえないんですよ。20000円近くつぎ込んでやっと1枚出たというのにまだ4枚も必要とは…。こうなったら意地になって頑張ります。

ところで精神科訪問看護を13年経験しましたが、4月から転職することになりました。看護師になりたい学生さん達に関わる仕事です。今は仕事内容というより、職場の文化になじめるかどうかの不安の方が大きいです。何とかなるのですが、久しぶりに全然違う仕事をするのは緊張しますね。同僚には「山岸さんは宇宙人枠なので大丈夫です。」と励ましてもらいました。いや、ディスられました。新しい職場でたくさん面白いネタを見つけてこようと思って

います。

ある訪問看護師のアタマの中
P320～

宮井 研治

今回の本編は、前回からの続編「支援の資源としての音楽」についてです。私の個人な支えとしての音楽について、2回連続で書かせていただきます。書きながら、過去の音楽との様々な出会いが思い出され、少々取っ散らかってしまいました。

前回も、執筆中にブレディみかこさんの著書に触発されたエピソードをこの通信欄に書きました。今回も、ザ・ビートルズのことに触れまっせ!みたいな前振りをして執筆をしておりましたところ、あら不思議、NHKのBSで「映像の世紀 バタフライエフェクト」というシリーズ物で「ビートルズとロックの革命」という番組が放送されたではありませんか!何たる偶然!(このように単なる偶然を人は「共時性」と呼ぶのでしよう、わたしユング派ではありませんが)ほんとによくできた番組で、ビートルズは単なる音楽ユニットではなく、音楽以外の文化、思想までも変革していった革命であったという事実が映像としてまとめられていました。その番組を視聴して何が嬉しかったって、私もバタフライエフェクトの端のまた端の隅っこに居たんだという認識でした。ビートルズと繋がってた～!ってことです。では本編をどうぞ。



人生は対応のヴァリエーション
P327～

内田 一樹

初めて担任したクラスが今度の3月に卒業する。まだあまり実感が湧いていないということが正直なところである。日々の忙しさとそのことに気持ちを向けられていないのかもしれない。ふと時間が空いたと

きにぼんやりと卒業のことを思う。3年間クラス替えがないと、3年間で環境が大きく変わることがなかった。途中で様々な場面には直面したが、私自身は大きく体調も崩すこともなく送り出すことができそうだ。そのことに今は一つ、安堵をしている。

社会科の授業を
対人援助学の視点から
P317～

中谷 陽輔

長男がこの春に小学校に入学します。ここ最近、就学前健診やら、入学説明会やら、体験入学やらが毎月のようにあり、しかもそれがすべて平日なので、共働きの我が家は仕事を夫婦で工面し合って参加したり、各書類の準備に追われたり、学童の申し込みをしたり、持ち物にひたすら名前を押したりして準備をしています。これも「小1の壁」か…と思いつつ、何かと忙しい年度末を乗り切ろうとしています。

とりあえず、名前スタンプを発明した人には、心の底から感謝しています。デジタル庁さん、個人情報保護とか後で考えてもらいたいので、予防接種歴を何度も手書きしなくていいような、ピッと読み込める何かしらを早く開発してほしいです。あとついでに文部科学省さん、安くて軽いランリュックを全国でデフォルトにしてほしいです。

…子育てをしていると、こんな風にさまざまな要望を胸に抱くようになります。少なくない数の大人が子育てをしているはずなのに、これらのことを改善するムーブメントが起きにくいのはなぜだろう、とすら思います。

コソダテに忙しすぎて、喉元をどんどん過ぎてしまい、その都度の熱さを忘れてしまうからでしょうか。制度を作ったり制度に影響を与えるような人たちがコソダテしていないからでしょうか。…とりあえず私は、喉元過ぎて熱さを忘れることのないよう、こちらに書き留めておこうと思います。

引き続きよろしくお願いいたします。

コソダテノシンリ
P307～

櫻井 育子

1月に誕生日を迎えて、今まではSNSなどで自分の誕生日をいうことも躊躇って

いたのに、「祝ってください！」とあつかましくもお願いした。こういうことも、「良し悪し」とか「好き嫌い」とかがある世界。快く受け入れてくださる方もいれば、なんかそういうのって自己顕示欲が強そうで嫌、みたいな反応もある。そう思えば、自分の見たい世界を生きているだけだから、えーい、やってみよう！と、「祝ってもらう」を選択する。結果、本当にありがたいことに皆さまからお祝いの言葉や、アマゾンのお買い物リストで買っていただくなど、まさに予想していないギフトをいただいた。書道で使うあれこれなのだが、なかなか届かない。調べてみるとこうしたトラブルも他にもあったようで、どうやら住所の連携がうまくいっていない。問い合わせするも、毎回担当者が異なる。しかも、話をしてみると明らかに海外の方で、日本語のイントネーションが違う。(話は伝わるんだろうか)と自分の思い込みが発動する。複雑な状況について説明するが、そのうち相手の「聞き方」がとても上手であることが分かってきた。それに沿って説明しているうちに、話の内容を的確に伝えられないのは自分自身の方であることが見えてきた。相手のペースで話を伝えよう。そう思ってから、やりとりが楽になった。ああ、本当にほとんどが思い込みの世界。そして自分中心の世界で生きている。実は伝わるはずがないとあきらめながら伝えてしまっていることや、相手を信頼して伝えていない、なんてことも多いにあるのかもしれない。無事にすべてのことが解決したのだが、この騒動にお付き合いいただいた皆さま、いつも見守ってくださる皆さまに、あらためてこの場を借りて感謝と愛を伝えたいと思います。

shukou0122@gmail.com

<https://ikuko-sakurai.com>

わたしはここにいる

P305~



鳴海 明敏

県庁職員を定年退職した翌月に新規開設された、情緒障害児短期治療施設(現在は、児童心理治療施設)の園長を引き受けてから、14年目に入っています。

園長室には「こかげ」という名前がつけられています。ということで、サブタイトルは「こかげのにちじょう」とします。紹介する子どもたちについては、それなりのカモフラージュを施しています。

児童心理治療施設は、現在全国で53か所が運営されています。少しずつ施設数が増えてここまで来たのですが、ここ3年くらい新設がなく、来園度も53か所のままのようです。その全児心協議会の全国施設長会議が、2024年2月15日~16日広島市で開催され、私も参加しました。

この機会に、ようやく原爆記念公園を訪れることが出来ました。14日に前泊し、15日の午前中に一人で行って来ました。巡回バスで、原爆ドーム前のバス停で降りたら、すぐ目の前にテレビなどで見慣れたドームがありました。映像を見て想像していたよりは小ぶりな建物でした。傍らを元安川が静かに流れていました。

ドームを2周回ってみました。ドームの姿はこれまで映像で見た通りだなあという印象でしたが、地面に崩れた瓦礫がそのまま放置されていたのは意外でした。その日のままだに散乱している瓦礫を見て、胸がざわつき、原爆の悲惨さを思いました。原爆の悲惨さは、戦争の悲惨さということです。ウクライナにしてもガザにしても、もう少しなんとかならんものかと思いました。

それから、原爆記念館の方に、だんだんに歩いて行ってみて、ああこつちを正面にしてこの公園は整備されているんだと気が付きました。記念館も見たいと思ったのですが、展示物の配置換えとのことで、見学することは出来ませんでした。

児童心理治療施設の園長室から

~こかげのにちじょう~

P304~

高木 久美子

遷延性意識障害者高木久美子

今回は、前号投稿からの3か月の間の指筆談ヨミトリと意思疎通支援装置ヨミトリ

君に関する出来事を団士郎編集長のご投稿のスタイルをお借りして時系列で書いてみました。スタイルをお借りするにはあまりに底が浅くて申し訳ないですが…。

とにかくそれらの出来事を通して一番言いたいことは、「全身の麻痺で身体が動かせなかったり言葉を発することができない=意識がない」ではないということです。病気や事故でそういう遷延性意識障害と呼ばれる状態になった方々の中で、実はいわゆるロケットインシンドローム(閉じ込め症候群)の状態である方がどれだけたくさんおられるか。その書かれる言葉を読み取って対話をし、なんとしてもお伝えしていかなければいけないと思います。ミニキーターとして全身全霊で取り組みを続けます！

ヨミトリとヨミトリ君で一緒にしましょ！

P294~

原田 希

牧場の両親が近々仕事を引退することになり、引き継ぎやシフトの組み直しをして、新たな雇用を段取りしています。父さん80歳、母さん75歳まで現役バリバリで頑張ってくれました。生活のサイクルは変わるけど、牛さんを含めた大きな家族の父さん母さんであることは変わらずです。牧場のゆく先を見守って欲しいと思います。そんなことで、私は仕事の分担が増え、テンパっており、今月の原稿は短めになってしまいました。が、新体制への不安や挑戦はどんどん原稿のネタになっていくだろう！と期待もふくらむ春です。

原田牧場Note

P236~

野中 浩一

私の周りだけだろうか。車で道を走っている中で、「停止線」がほとんど消えていて、近づくまで見えない場所があった。そうかと思えば、今日は道路上の「止まれ」の表示が消えかかっているのを見た。なにも業者がさぼっているわけではないだろう。

小さな変化に不安を覚える中、私が運営するフリースクールの卒業式が近づいている。今年も高校3年生8名が卒業する。受付・司会、音響・映像、道具管理、贈答と飾りつけ、生徒30名が各担当に分か

れて準備に取り組む。その中には、これまで卒業式に参加した経験がない子もいる。活発に話し合う生徒たちを見て、元気をもらう。

「島根の中山間地から Work as Life」 P285～

畑中 美穂

この季節に、毎年、誕生日のお祝いのメッセージを贈る方がいる。御年なんと、90 歳。数年前のカードには、バースデーケーキを描き、そこに歳の数のろうそくを描き込んだ。「ちょっと待って、一体いつ、描き終われるんや…」。そうしているうちにだんだんとたのしくなってきた、出来上がった“作品”を前に思わず笑みが出た。

なんてすてき！

そして今年はさらに上をゆく。ケーキの絵は描かなかったけれども、心のなかでは Happy Birthday の歌でいっぱい。日々の事ごととなかで、その方に教えてもらったことが“私の言葉”に訳されて、言葉として、また行いのなかで現れてくることを感じる。

M 先生、おめでとうございます。この一年もどうぞお元気で！

一語一絵 P276～

渡辺 修宏

以前より、疲れやすい。疲れがとりにくい、と感じることがある。単純に「年」「老化」のせいになると、なにも対応しようがないので、ちょっと筋トレをはじめてみた。あれから1年。ちょっとだけ筋肉が増え、確かに疲れにくくなったような気がしないでもない。でもなぜか、お腹はまったく引き締まらない。やっぱりこれは「年」のせいかな？

対人援助実践をリポートする この一冊 P282～

米津 達也

三島有紀子監督の『一月の声に飲びを刻め』を京都のミニシアターで観た。最初からこれと決めていたわけでもない。芝居の稽古の帰りに、折角京都に来たのだから、と立ち寄ることにしたのだ。良い映画と巡り会えた。人は皆、罪と赦しを背負って

生きている。そんな声にならないほどの小さな声にきちんと耳を傾ける。それは大阪湾に迷いこんだクジラのような存在でもあるような気がしてならない。



川下の風景 P250～

本間 毅 退院支援研究会

語りの「心理的ムーブメント」

前号で報告した「広島大会 企画ワークショップ1」のなかで、中村正先生に私には見たり聞いたりできない私を説明していただいた。村本邦子先生は、東北の民話の語りや焼き物の絵付け、津波への漁師達の対処「沖出し」を例に、『土着の知』を「身体化」という視点でコメントされた。そして先日の「第22回ものづくり質的研究センター読書会」では、森岡正芳先生が「何故、語りでクライアントが変わり、聞く側も心を動かされるのか、本当のところは私にも分らない」という趣旨で発言されていた。

19世紀半ばの生物学者エルンスト・ヘッケルは、「系統発生(生物が進化した進化の道筋)を繰り返して個体は発生する」という『反復説』を唱えた。この説を踏襲した『アルタドステーツ』という映画を観た医学生は、主人公の科学者が外界の刺激を遮断する水槽に身を横たえ、メキシコ先住民の幻覚剤を用いて意識や記憶のみならず、身体も退化させて原始人の姿で暴れるさまに驚き新宿ミラノ座を後にした。

夢野久作は、怪作『ドグラ・マグラ』において「胎児は受胎に続く発生の過程で原始からの夢を見る」と九州帝国大学精神科正木教授に語らせ、『押し絵の奇蹟』では死に臨むピアノ教師トシ子は母に瓜二つの歌舞伎役者へ「恋愛のような心理的クレーゼにおいて、精子や卵子の記憶は揺さぶられ、肉体的交接がなくとも相手に似た子が生まれる」旨の手紙をしたた

めた。

語るものやそれを聞く側に生じる「心理的ムーブメント」は、無からではなく予め仕掛けられた何かに呼び起こされるとしたら…。話が伝わらない相手は単に違う進化の道筋を辿ってきただけのこと。なればこそ、敬意を払い仲良くするにしくはない。

幾度となく会い、 語り合うことの意味 P258～

玉村 文

2024年の幕開けは、子どもたちを連れて恒例の温泉旅行へ。昨年も泊まったホテルで勝手もわかる安心感と、1年ぶりの温泉という非日常感を味わえました。4歳と2歳になる子どもたちは広くて熱いお風呂が苦手。出発前から「怖い～」と不安そうでしたが、露天風呂なら熱すぎなくて楽しいと克服でき、成長を感じました。今年は温かく、ホテル近くの海辺で延々と遊んでご満悦の子どもたちでした。美味しい料理や芯まで温まる温泉にわたしもリフレッシュできました。3人目が生まれたら、家族旅行ではこんなにリフレッシュできないのかもしれないと、先々を考えてしまうのでした。

応援 母ちゃん！ P243～

川畑 隆

もしかして『人生は対応のバリエーション』を連載している宮井研治さんもこの短信に書くかもしれませんが、恩師の山本昭二郎先生のお墓参りに行ってきました。山本先生については以前にもこの短信で書きましたが、大阪市の児童相談所の判定係長や児童院長、神戸松陰女子学院大学の先生をされていたかたで、3年前に93歳で亡くられました。お墓は天橋立近くの与謝野町にあって、この3月まで峰山乳児院長をされていた先生の姪御さんが案内してくださいました。

実はこのお墓参り、総勢8名の墓参ツアーになりまして、お墓参りのあと、姪御さんを囲んで山本先生の想い出話に花が咲きました。8名のうち6名は大阪市の児童相談所のOBや現役でした。この姪御さん、山本先生と喋り方が一番ですが、お声もお顔もよく似てらっしゃるのです。それ

はご本人も自認されていて、私たちも山本先生ともお喋りしている感覚でとてもいい時間を過ごさせてもらえました。姪御さん、そして山本先生、ありがとうございました。

その時間が終わってからは「グラン・リゾート・天橋立」で、ゆっくり温泉の湯に浸かったあとカニをいただき、11時半くらいまで二次会、男性部屋は5人、女性部屋は3人で修学旅行みたいいに枕を並べ、翌日は観光船に乗って天橋立ビューランドから股のぞき(前々日に股のぞき中に押されて転落した事故のあった笠松公園が遠くに見えていました)する人はして、「カフェ・ド・パン」というカフェから廻転橋を見ながらオイルサーデンサンド、地ビール・地ワインを飲む人は飲んで、天気も二日間結構よかったので、コンパクトなよい旅行になりました。列車に乗る前に姪御さんにお電話しましたが、姪御さんのお声のうしろで山本先生が笑顔で手をふってくださいました。

サイコロジー P238～

松岡 園子

今年も確定申告の時期がやってきました。今回初めて、freee会計というアプリを使って申告の準備をしています。スマホでレシートを読み取り、銀行口座のデータ読み込みや申告書の作成まで完結でき、昨年よりもだいぶ楽。昨年のこの時期は、申告書類の整理とマガジン原稿の締切が重なり、もう何を書いていたんだか……覚えていません。今年はあともう少し！ 楽しみながら済ませます。

統合失調症を患う母とともに 生きる子ども P233～

杉江 太朗

子どもの分野で働く杉江と言います。我が社では、4月から新しい支店が出来るため、私のいる支店も分散化され規模が小さくなる可能性があります。過去の短信でカフェドウスギエを営業していると書きましたが、顧客の減少に伴い、売上に影響するのではないかとヒヤヒヤしています。コーヒーチェーン店でも、コーヒーが値上がりしているそうです。カフェドウスギエでも値上がりを余儀なくされましたが、それ

でも1杯60円。まだコンビニより安いので営業は継続です。今、困っていることは小銭の取り扱い。今までは郵便局に持っていけば手数料なしで入金が出来ましたが、今は手数料がかかります。ただでさえ赤字経営。手数料をかけてまでと思っていたら小銭ばかり貯まってきました。さてさてどうするかな。

「余地」-相談業務を楽しむ方法- P230～

浅田 英輔

県庁にきて9年目が過ぎようとしている。いろいろな出会いがあったが、特に今の仕事は他部や他課とのやりとりがとて多く、今まで出会っていないタイプの方々とつながりができた。どこがひっかかったのかわからないけれど、Web雑誌の取材を受けて掲載されました！ニヤけ顔を送ったらそのまま採用されちゃった。

<https://wellulu.com/active-participation/12979/>

世界が広がると、面白いことも増えるなあ。

臨床のきれはし P108～

三浦 恵子

文末でも少し言及していますが、毎年1月17日になると毎年読み返す書籍があります。安克昌氏の「心の傷を癒すということ」です。私事ですが、報告者は初めての現場に入った1年目に阪神淡路大震災に遭遇しました。

安克昌氏の「心の傷を癒すということ」は、実際に被災地で奮闘する精神科医師の記録が産経新聞に連載され、後に書籍化されたものですが、一番最初の版はサントリ文芸賞を受賞、その後阪神淡路大震災の後に新增補版、そしてNHKテレビシリーズの際に増補改訂版が出版されています。

私はこの本で心的外傷について具体的に学び、「社会は心的外傷に満ちている」という言葉と、「これまで日本の社会は、人間の『力強さ』や『傷つかない心』を当然としてきた。しかし今後、傷ついた人が心を癒すことができる社会を選ぶのか、それとも切り捨てて厳しい社会を選ぶのか」という問いかけを、常に考えるようになりま

した。

安医師が38歳で夭折されてからも、大きな災害は絶えず、そのたびに「絆」といった美しいワードが世の中に溢れるようになりました。トラウマという言葉も日常的に使われるほどの概念になっています(ただその使用方法が間違っていることも往々にしてありますが)。

その一方で、インターネット上での匿名性を悪用して人を叩くことが増え、なかには「詩人逮捕系」と称する動画が注目を集めてもいます。批判も様々にあり逮捕者も出ながら、それらが好まれる一端には、閉塞感のある時代のなか、「我こそ正義」「落ちた犬は叩け」的な空気があるように感じています。

「心のケア」には寄り添うこと、そして今でいうなら「伴走型支援」も無論大切ですが、安医師が言われたような「品格」をどのように我々が保っていくのか、それが問われていると考えています。

更生保護官署職員

(認定社会福祉士・認定精神保健福祉士)

現代社会を『関係性』という 観点から考える P219～

迫 共

年末年始に、映画館で立て続けに「ゴジラ-1.0」と「窓ぎわのトットちゃん」を見た。

「ゴジラ-1.0」は特殊効果がうまくできていて、大画面で没入できる作品。海外の評価も高いのはうなづけた。戦争トラウマも少し描かれているものの、ゴジラと戦うために幻の国産戦闘機で特攻をしかけるなど、「お国のために命を懸けて戦うのが美德」に傾きながら、なんとか「生きて抗え」に戻した作品だ。



精神科医の思うこと

P162～

柳 たかを

重曹クエン酸水

先日、2月下旬、育てていた大根が収穫の適期になった。5ヶ月前9月下旬に種から植えたもの。小さな家庭菜園なのでぜんぶ合わせても40本程度だ。同じようなサイズが並ぶスーパーのものと違い、太さ5センチ、細くて長さが30センチもないのものから50センチ超の長さで太さ10センチ越えの立派なものまで実にいろいろあって楽しい。僕は化学農薬は使わない、ただネットで教えてもらったアブラムシ避けになるアブラ石鹸水は自作して散布している。好物は毎朝欠かさず納豆と大根おろし、ご飯(前夜の取り置き)にねった納豆に大量の大根おろしをかけて食します。大根の辛い部分のすりおろしと納豆が実によくあいます。冷たい蕎麦にも大根おろしを大量にかけ、刻みネギを散らし自作のツユをかけて食します、これがまた美味しい！蕎麦には薄揚げのあぶったものをのせます、薄揚げは揚げ油でずいぶん旨みに差があることを知りました。そしてできれば国産大豆使用のもの。そして重曹クエン酸水を日に2回は摂ります。昔、日本医師会の偉いさんが重曹クエン酸水の効果を聞かれて、あんなものを庶民が摂るようになると病気になる人が減って医者はメシの食いあげになると、嘘かまことか言ったという話があります。血液がアルカリ性になり、腸の調子も良くなるようです。私も愛飲するようになってから全く便秘なくなりました。毎日食べるもので身体はつくられるので、農薬や添加物の少ないものを選んで摂る努力はできる範囲とするのは健康な老後人生の助けになるのは間違いないと思いますね。

東成区の昭和 思い出ほろほろメモ
P169～

団 遊

冬はスキーを楽しみます。

スキーに明け暮れた大学時代を経て、社会人になってから20年ほどは、仕事に必死でスキーのことは頭から飛んでいたのですが、5年ほど前からまた、始めることにしました。

以前とは道具がかなり変わっていて、ゲレンデに立つと期せずしてオールドスタイルな滑りを披露する羽目に。「これじゃあ格好がつかないな」と師事する先生を見つけて、学び直すことにしました。



当時とは違い「ワーケーション」や「リモートワーク」が常識の世の中になったことも追い風です。Wi-Fiがばっちりの定宿を見つけ、早々に女将と仲良くなり、仕事環境を整えてくれるようになりました。昼までZOOM会議をした後、夕方まで滑ってまた仕事、そんなスタイルで滑走時間を稼ぎました。

かくして先日、大学時代に取得した資格の再取得に成功。あの頃の自分に追いつき、なんとも晴れやかな気持ちになりました。

私が取った資格にはもうひとつ上があって、そこが最高峰。「自分越え」を目指して、未踏の道の開拓が始まります。

団遊の脱線的経営言論

休載

村本 邦子

1月11日に沖縄滞在から帰り、20日からは熊本・鹿児島に行っていた。2月15日から26日はニュージーランドに行き、3月3日から東北に行く。15日からは台湾だ。こんなに自由に行きたいところに行ける1年は人生最初で最後かもと、意欲的にあちこち動き回ったサバティカルだった。研究テーマは「トラウマの世代間連鎖と土地の力」。異なるものと出会う時に己を知れる。たとえば、沖縄戦で甚大な被害を与えた責任者である牛島満が薩摩出身でチェスト部隊と呼ばれていたということを知り、自分の一部を成しているものを理解する。あちこちで沖縄戦の痕跡を肌身で感じてきたことに基づく理解である。そうやって己

「窓ぎわのトットちゃん」は黒柳徹子氏の幼少期のアンソロジーだが、小学校を退学させられたトットちゃんを受け入れたトモエ学園の校長が、日本にリトミックを普及させたひとり、小林宗作であることは意外と知られていない。トットちゃんを「君は、本当はいい子なんだよ」と受け入れてくれた小林先生は、米軍の空襲で学園を焼かれても、「次はどんな学校をやろうか」とつぶやく。

今年は元旦からの地震、羽田空港の飛行機事故と不穏な空気ではじまった。心穏やかに過ごせるといのだが。

保育と社会福祉を漫画で学ぶ
P226～

黒田 長宏

本文のあらすじになるが、1月23日に心筋梗塞を発症してしまい、カテーテル手術してもらい、いったん退院したが、もう一か所手術が残っており、心配中。

<https://konnankyujotaijimdoofree.com/>

あゝ結婚
P203～

松村 奈奈子

ちょっと前に高校生の診察で、「卒業旅行で鹿児島に行ってきた」「特攻隊の資料館とロケット打ち上げのこ」「よかったで、先生も行ってきたら」と勧められたので、今年のお正月は鹿児島旅。有名なのは知覧特攻平和会館ですが、万世特攻平和祈念館・鹿屋航空基地資料館なども訪問しました。もちろん特攻隊については教科書的には知っていましたが、沖縄戦のために、鹿児島など九州に特攻基地が集中していたんだと再認識させられました。実は年末に静かな瀬戸内の小島、大津島(山口県)を訪ねて、「人間魚雷(回天)」の訓練基地の遺構と回天記念館にも行きました。いずれも場所にも、たくさんの若い人の遺書の展示がありました。

生まれて初めての鹿児島、大人の修学旅行的にJAXA内之浦宇宙空間観測所や桜島を楽しみましたが、鹿児島名物かき氷「しろくま」を食べながら、いろいろ考えさせられました。

を耕し、耕された己でもって新たな何かを語ることができるのだと思う。脱植民地化、新たな知の創出の方法を考えている。

周辺からの記憶

—東日本大震災家族応援プロジェクト—

P127~

國友 万裕

この原稿がアップされる時には、僕は60代になっています。

誕生日が2月27日なので、この原稿を書いている時点ではかろうじて50代のんだけど、いよいよ還暦の台にのります。

今は人生100年時代なので、60歳なんて、まだ若いよと言ってくれる人が多いのですが、しかし、これから先、人生が大きくブレイクするとも思えません。

ただ、確かに今は60代くらいまでは元気で入れる可能性が高いので、これから60代マッチョを目指そうと思い、次回からはそれをテーマに新たなタイトルの連載を始めたいと思います。したがって、今まで書いてきた「男は痛い！」は今号で終わります。

幸いなことに、今回が連載の50回目で、数字的にもキリがいいですし、この後、『インセル時代の男たち 弱者男性で読む日米映画』という本を出す予定でいます。この本は、これまで「男は痛い！」に書いてきたことからの抜粋の部分がたくさんありますので、出せるのは対人援助マガジンのおかげです。残念ながら、まだはつきりとした発売日や表紙などが決まっていないので、ここでは発表できないのですが、決まり次第またお伝えします。

これから60代。僕としては、一日一生。日々をひたすら生きていきたい。その決意も込めて、クリスマスイブに洗礼を受け、クリスチャンになりました。

洗礼は天国へのパスポートです。これから神の手に引かれて、神の道を歩んでいきたいと思います。僕のキーワードは、「清貧」です。

男は痛い！

P95~

西川 友理

大和大学白鳳短期大学部で保育者養成に、その他いくつかの場所で社会福祉

士など福祉系専門職養成・および育成に携わっています。

今年度の対人援助学会の理事会企画で共に発表させていただいた比治山大学の“さこさん”こと迫共先生と、愛知のかわさき保育園の園長“のりこさん”こと南部紀子先生と共に、「保育の当事者研究会」を始めました。3人とも、当事者研究で出会い、あとから“え、保育分野だったの？！”と知り合った仲間です。今の所、オンラインで開催中。さて、どうなるでしょうか、楽しみです。

気になる方は、X(旧Twitter)で「NY【支援するひとの対話の場】」(@NY20220222)を検索してみてください。「保育の当事者研究」をはじめ、西川が関わっている対話の場の告知をしています。

福祉系対人援助職養成の

現場から

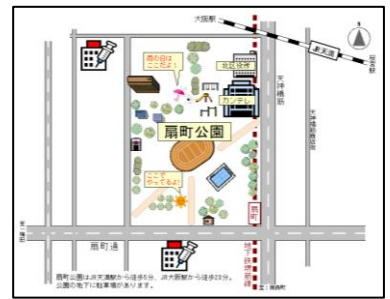
P53~

竹中 尚文

前号で、私たちがホームレス支援を大阪市の中之島でやっていると書きました。この3月より大阪市の扇町公園に移動します。ずっと支援活動の手が足りません。手を貸してやってもいいよ、と思われるかたは3月26日(毎月第4火曜日)の18:30に扇町公園にお越し下さい。また、宿泊施設で使わなかった歯ブラシ・ひげ剃り・スリッパを募集しています。◆ホームレス、路上生活者、野宿生活者など、いろんな言葉があります。ホームレスの人たちは、とても仲間意識が強いです。人間関係を大切にしています。彼らは一様に「仲間がいなければ、生きていけない」といいます。彼らの多くが家族とのつながりを失ったのです。建物としての家がないというより、家族のいる家をなくしたのです。その痛みを感じている人たちがホームレスなのだと思います。

◆私は、10年ほどホームレス食料等の支援をしてきました。数年前から、彼らの生い立ちを聞かせてもらうようになりました。はじめは、自分を語ることに警戒感がつきまといました。話を聞かせてくれた後、ホームレスの方から近づいて来てくれるように感じます。食料等の生活物資を提供していた所から、人生を少し共有させてもらったように思います。やはり、私たちは

精神的な生き物なのです。



路上生活者の個人史

P93~

坂口 伊都

今年度から、とても久しぶりに実習科目の担当をしています。保育士と社会福祉士の実習。花園大学の実習指導室講師から実習の仕事が始まりました。いろいろな大学で実習担当をして、何回も施設に謝りに行ったり、学生をなだめたりして胃が痛くなることもありました。実習担当を外れた時は楽だなと思ったものです。また実習ゼミの担当を持つと、今までの経験と私の年齢も重なって、かなりおおらかに受け止めるようになりました。学生に「失敗したらいい、一緒に謝るから大丈夫」と笑って言える貴族はつききました(笑)

実習訪問に行くときとホッとした顔を見せ、いっぱい話をしてくれる実習生。施設の方も、実習指導者の方の多くが実習を経ていて、温かく迎え入れてもらっています。ここでも、時代の変化を感じます。実習報告会の練習もいっぱいして、何を伝えたいのか一緒に考えました。言葉にして表現しようとすることは、人を成長させますね。まだ3月まで実習があるので、学生と一緒に頑張ります。

立場が変わると何が見える

P120~

河岸 由里子

公認心理師・臨床心理士・北海道

かうんせりんぐらうむ かかし 主宰

【子育て支援】

市の福祉団体として「子育て支援を考える会」を創設して丸20年になった。20年前当時、市内では、保健センターや家庭児童相談室のほかに、保育園や幼稚園、支援センターや子育てサロンなど、それぞれが別々に子育て支援を行っていた。母親が子育てに悩んだ時に、どこに行けば

よいのか。家庭児童相談室として、全体をまとめて横のつながりを作り、母親に身近に支援があることを伝えられればということ、支援者を支援するシステムがないことから、役所にいる間にと提案したものの、実現できなかった。いろいろな機関の人を一堂に会した時に、事故があったらどこが責任を取るのかというのが問題だった。そのことに失望し、市役所を退職後自分で作ったものである。一回目の会の時、多くの機関が集まってくれて、顔の見える形で、各機関がそれぞれの活動を知り、連携できるように話し合い、ざっくばらんにそれぞれの現場で起きていることを共有した。以来月1回の研修会を実施し、その研修会ごとに「添え木」という通信を発行してきた。2月の発行で133号となった。年に1回は一般市民向けに様々な講師の方に来ていただいて、講演会を開催してきた。本誌の編集長でいらっしゃる団先生にもご登壇いただいたことがある。それがちょうど10年前、創立10周年だった。

支援者を支援することで母親支援を間接的に支えることになる、そう思って研修では、支援者として必要な知識を共に学んできた。毎回筆者がほぼ一人で行ってきた活動で、会員は30名ほど、ここ数年は二か月に1回の研修として続けてきた。この3月に創立20周年記念講演会を開催する。北海道ののちの電話とのコラボで、「こころのライブ授業」と題し、講演とロックバンドの演奏がある。どのくらいの人に来てくれるか楽しみである。

私も今年70歳を迎える。あれもこれも一人でやるのは限界がある。この節目に今までの活動の成果を振り返り、これからの活動をどうしていくか、今一度考えてみようと思っている。

ああ、相談業務

P59～

先人の知恵から

P191～

大谷 多加志

前号の編集作業が佳境になっていた12月中旬に、2020年にコロナ禍に入ってから、初めての発熱がありました。39度の高熱で、さすがにこれはコロナかインフルエンザに罹ったのだと覚悟したのですが、検査は陰性。でも全然症状が改善せ

ず1週間以上寝込むことになりました。結局、風邪をこじらせて肺炎になっていて、肺炎の治療を始めるとすぐに回復しました。

肺炎が治ってやれやれと思っていたら、どうもベースとして肺の状態が良くないということで、人生初のCT検査を受けることになり、その結果「気管支拡張症」と診断されました。気管支が広がった状態で戻らなくなっており、肺炎が生じやすい状態になっているようです。治療には低用量の抗生物質を長期服用する必要があるということで、数十日分の飲み薬を抱えて帰宅するはめになりました。食事の度に服薬があると何だかすっかり老け込んだ気分がしてきます。少しずつガタがき始めていることは感じますが、何事も体が資本だとは思っているので、ちょっとは劳わりながらうまく付き合っていこうと思います。

発達検査と対人援助学

P110～



鶴谷 主一

柑橘好きの私には嬉しい季節がやってきました。

いちばん推しの紅まどんなは、もうシーズンが終わり、普通のみかんも終盤になってきて、これからはハッサクやポンカン系、あまなつ系ですね！最近新しい品種が次々開発されて出てくるので、見逃さずチェックして味わっていきいたいと思っているこの頃です。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール office@haramachi-ki.jp

インスタ [haramachi.k](https://www.instagram.com/haramachi.k)

ツイッター [haramachikinder](https://twitter.com/haramachikinder)

幼稚園の現場から

P46～

中村 正

退職準備をしている。1月15日には学部の「臨床社会学」という講義の最終回に

退職記念講義をした。学部が準備をしてくれた。35年間勤続である。学部や大学院のゼミの卒業生だけで400名近い。学部事務室が校友会をとおして案内のハガキを出してくれた。それに対して各地から返事が事務室に届いた。お手数だったと思うが組織立っていることに感銘を受けた。入職したのは1989年なので、一期生は50歳を過ぎている。卒業生の子どもが学生となり親子で最終講義に来てくれた人もいた。嬉しいものだ。しかし過去を振り返ることは少しにして、次の5年間、何をするかについて話をした。70歳までのセカンドライフのことだ。5年間は特別任用教授として科目担当をすることもあり、まだ現役のつもりだが、やりたいことがあるので一つの区切りをつける。さしあたり一般社団法人を創設して実践のベースをつくる予定である。やっていることはそんなに変わりはないが、事業化という形態をとることとした。これらについてもマガジンに記していきたい。しかし退職は煩雑な手続きの連続なので慌ただしい。

臨床社会学の方法

P22～

団 士郎

映画「哀れなるものたち」を観て、「そうなんだよ！」と膝を打った。

近年の性加害問題に関する社会の受け止め、報道のあり方に違和感が拭えなかった。基本的には正論なのだから、何を言うこともないのだが、そこに漂う時代の、いかにも今風。そしてしばらくするとかき消されてしまうような日本社会のうさん臭い空気が、ちゃんと議論することから人々を遠ざけている。

そんな感覚の時にこの映画を観た。主人公の健全さ、強さ。男のフィルターを通した価値観や、それへの反感ではなく、主人公オリジナルの真っ当さに感激した。

見かけはフランケンシュタイン博士の作り出したモンスターである。だからこその純粋な学習過程。うるさい男社会のベールなど纏われない強いジャッジに喝采だった。そうか、世界はこんなものを見せてくれるんだと納得だった。

私は「これは何？」とか、「どう理解したらいいのか？」なんて、まったく思わなかった。意見の分かれる映画だと書いた人も

会ったが、私にはとにかく面白かった。

晩年 D・A・N 通信⑦

P38～

中島 弘美

今回の能登半島地震によって、大きな被害を受けた方々に、心からお見舞いを申し上げます。この地震の報道に触れるたびに、29年前の阪神淡路大震災を思い出すことがいろいろあった。そのひとつが、子どもたちの様子だ。親が用事で離れようとすると、わずかな時間でもバラバラになるのを嫌がり、行かないでと強い口調で話していた。明らかに落ち着きがなくなっていた。機嫌よく遊んでいるように見えたが、「しんど、なな～(震度七)」などといいながら、建物が崩れる様子を真似して、地震ごっこをしていた。このような遊びは、不謹慎だと思われるかもしれないが、子どもは地震による体験を遊びに取り入れて、受けとめていくのだなあと思った。

震災による影響と思われる子どもの言動は、否定せずに受け止めることが何よりも大切だと改めて感じている。このようなことも、今後、学生さんたちにも伝えていきたい。

カウンセリングのお作法

P35～

藤 信子

主催している研究会の30周年記念として、他の地で研究会を続けながら、時々京都の研究会にも来てもらっていた友人二人を招いて、3時間ほどのグループをおこなった。最初の1時間は私と友人と3人で「なぜ、私はグループを続けているのか」というテーマで、思いつくままに話す。そのあとで、参加者(30名近くいた)全員で、グループを行った。始める前に、最初にあったのは、何時だった？とか少しずつ思い出すと、40年くらいの精神医療のことなど思い出すことになった。40年くらいのことを共有できる友人はいいな、と思う日だった。

解放の心理学へ

P32～

篠原 ユキオ

今年も鳥取県の漫画コンテストの審査員として贈賞式に出席してきた。鳥取県は

12年前からまんが王国とする部署を県庁内に作って漫画文化の発信や漫画家、アニメ声優育成のためのイベントを展開している。

授賞式には毎年、平井知事が贈賞者として登壇し受賞者にお祝いのメッセージを贈る。この時、海外からの受賞者にはメモ無しでその国の言葉で語りかけるのが恒例だ。作品はアジア圏のみならずロシア、イタリア、ウクライナの他20数カ国からの投稿があり、今年はマカオとインドとミャンマーからの受賞者が出た。

今年も平井知事のメッセージを楽しみにしていたのだが能登への被災支援で欠席となり、代理の県庁職員が緊張した面持ちでマカオからの受賞者に現地の言葉で語りかけていた。平井知事からの指示があったのかは定かでは無いが喋り終わった後の彼のほっとした表情に全てが見て取れた。インドの受賞者は欠席だったのでもし出席していたら彼にはそれ以上のプレッシャーがあっただろう。

ミャンマーの留学生は日本語で大丈夫だったが彼の作品は国軍の圧政に苦しむ現地の人々の姿がリアルに描かれ、その想いを強く訴えていた。あらためて漫画が世界の共通のコミュニケーションツールになっていることを実感した。

ちなみに鳥取へは行きも帰りもドアに『まんが王国』のロゴの入った特急スーパーはくとのコナン号であった。



HITOKOMART

P246～

見野 大介

今年も息子とお風呂入った後に残業するのが定番化している。来年こそは改善したいと誓うことで、もう今年は諦めています。

ハチドリの器

P4

鶴野 祐介

2023年2月17日に脳梗塞を発症してから丸1年になりました。おかげさまで、なんとか今年4月から職場復帰を果たせそうです。ただし、「生き急ぐ」のはやめにして、「ぼちぼちいこか」をモットーにいきたいと思っています。

うたとかたりの対人援助学

P197～

寺田 弘志

2月22日は、恩師・佐々木雄二先生の一周忌でした。

あれから一年。いろんなことがありすぎた一年でした。

その4日前は父の七回忌でした。

父の法要には欠かさず出席してくれた叔父も去年なくなり、間もなく一周忌。

この時期は故人のことがあれこれと思い出されます。

最近ふと思い出すのが故・山下宰先生。

齋藤稔正先生のASC研究会でよくお目にかかりました。

山下先生は心身歯科医学の草分け的存在であり、佐々木先生とも仲良くされていました。

山下先生は、麻酔を使えない患者さんに催眠をかけ、痛みを和らげながら歯の治療をされていました。

いま思えば、佐々木先生も山下先生も、とても穏やかでやさしい先生でした。

お人柄がよく似ていらっしゃるようです。

山下先生が何度もおっしゃっていたのが「常識を疑え」という言葉でした。(続きは本文で)

接骨院に心理学を入れてみた

P213～

古川 秀明

健康観察を活用した自殺予防の取り組みを推進するためにいろいろ動き回りました。「統計調査」「現場の声」「現状」「法律」「陳情」「プレゼン」・・・生来急げ者の私が自らこんなに能動的に動くのは、我ながら珍しいと思います。

例えどんなに内容に自信があっても、新しい何かを学校に導入するのがこんなに大変なこととは思いませんでした。また、現場教師の疲弊度も改めて実感できました。

この取り組みがどれだけ効果があり、ま

た広まっていくのか全く分かりませんが、ハチドリの教訓を活かして、タダタラント細く長く続けて行きたいです。

講演会&ライブの日々 P113～

きむら あきこ

今年の幕開けには、大きな地震や飛行機事故などがあつた。いつもの年よりも、ずっと「死」を身近に感じる年の始まりだった。

そんな幕開けに、自分自身もある朝、ぶっ倒れてしまった。全く起き上がれず。いつになく不安になって、子ども達に SOS を発信し来てもらった。これからは、こんなことも増えるのかもしれない。なるべく、自分でなんとかできるようにはしておきたいが、誰かの助けをかりなければならぬ時も覚悟しておかなければと思う。幸いにも、一日半ほどで復帰できた。

変な目標の立て方だが、「あと一年しか生きられないと思って生きる。」が今年の目標だ。気持ちの持ち方の話。あと一年、と考えると、やっておきたいこと、やらなくてよいこと、選択しやすくなった気がする。

かぞくのはなし P292～

山下 桂永子

この時期になるとやはり思い出すのは 4 年前の今頃、学校園が突然の臨時休業となり、教育現場が大混乱となったことと、教育相談においても知恵と工夫が試される日々だったこと。今年度は制限なくほぼすべての行事が行われ、最近では「そういえばこの子のマスクを取った姿を見たのは久しぶりだなあ」とか、「このお母さんはマスクを取るとこんな顔でこんな表情をされていたんだなあ」など、何だか懐かしいような新鮮なような気持ちになります。

今回のお話は、そのコロナ禍に入るころに、また別のことで頭を悩まし、怒ったり泣いたりしていたことのお話です。読んでいただければ幸いです。

心理コーディネーターになるために P178

脇野 千恵

4月からの生活に変化を持たせようと思

っている。もうフルタイムでの働き方を終了したいと考えたからだ。本当に長い間お疲れ様でしたと、自分で自分を褒めてあげよう。

さて、これからの時間をどう過ごすか？まず、好きなことは今まで通り続ける。楽器の演奏、一人旅、畑作り、読書、ドライブなどなど。まだまだやりたい事もある。やっておきたい事もある。ただ、世の中の状況に不安がないわけではない。戦争を身近に感じてしまうのは、私だけだろうか。だからと言って何もできないが、せめて世の中を俯瞰的に捉えることだけは、忘れないようにしたい。

こころ日記「ぼちぼち」 P253～

千葉 晃央



お仕事で、和歌山県御坊市に向かう。紀伊半島は車で1周したことがある。しかし、鉄道では行ったことがない。今回は「特急くろしお」で向かうことにした。新大阪駅発の特急くろしお。一日1本は京都発。そういえば京都駅でよく眺めていた。模様はパンダ。日本で一番パンダがいる白浜アドベンチャーワールドにちなんでいる。大阪でも天王寺でも乗り換えなく、ずいぶん楽。余裕をもって前日に行き、当日の午前半日は御坊市を事務局の方々が案内してくださった(ありがとうございます！)。

和歌山県はコロナでの対応、徳川家がいたところ、カナダへの移民、トルコの関係など様々浮かぶし、海も山も豊かで広い。関西とはいえ、独自の存在感があるように感じてきたのでうれしい機会だった。スーパーマーケットに行くと新鮮なクジラの刺身、たくさんの種類の梅干しの数々。南海トラフ地震対策で津波避難タワーも各所にあり、特急列車内にも津波の時の避難方法が示されていた。石油基地、発

電所もあり、その誘致に伴う住民立ち退き等への補償に関するドラマも教えてくださった。御坊市の名称となった御坊の本願寺日高別院にもお邪魔。境内には音響設備もあり、地域での実践の姿を感じる環境が整っていた。障害者施設の事業所にもおじゃま。地域の史跡と福祉のコラボは一つの成功モデル。認知症の取り組みでも御坊市の実践は注目されていて、そういった方々がいて豊かなネットワークが形成されていて素晴らしい。研修会では資料はネットでのデータ配信を行い、印刷は必要な人だけが各自でしてくる、情報は共通のソフトを全事業所が導入し伝達を円滑に！とサステナブルで、負担が少ないオペレーションにアップデートされていた！お客様感覚での研修参加ではなく、参加する！印刷する！持ってくる！自分たちのため！という動機付けが伴う仕組み。それを根気よく若い世代の方々が作りあげておられた。京都で、今日行った保育園ではインカムを使っていたし、転倒しそうなシルエットになるとスマホに通知が飛ぶというソフトを入れている高齢障害者支援の現場の話も聞えてくる。こうしたバージョンアップの努力に伴うコミュニケーションの発生こそがさらに相乗効果になっているのではとも思う。

家族支援と対人援助 **ちばっち**

chibachi@f2.dion.ne.jp

090-9277-5049

障害者福祉援助論

P17～

荒木 晃子

勤務する生殖補助医療クリニックで、LGBTQ 当事者の診療を受け入れる体制創りが暗礁に乗り上げている。職場で新しい取り組みを始める際には何かしら抵抗や戸惑いが生じるのはいずこも同じであろう。ましてや、厳密な個人情報の守秘義務を負う医療現場では尚更である。なかでも、生殖補助医療はカップルの不妊問題を扱い、「カップルの性と生殖」に関する双方の心と体が治療対象となる。そのため、生殖医療従事者は、通院する個人・カップルの「誰にも知られたくないプライベートな内容」を扱う配慮とスキルを体得している。

このような診療体制を持つ生殖補助医療現場の在り方は、LGBTQ 当事者にとって有用であるに違いない。しかし残念ながら、このような診療体制を持つ医療現場があることを、成人したLGBTQ 当事者の大半は知らない。過去に、結婚して家庭をもち、子どもを産み育て家族をつくるといったライフストーリーを描く経験を持たないからであり、LGBTQ 当事者が家族をつくることを前提とした医療体制や社会保障、法整備のない社会で暮らしていたことがその理由にある。

現在、自身が当事者であることに気付いた子どもたちが成長し、安心して暮らすためには、教育現場と共に医療現場も早急な整備が必要である。

山陰の小さな生殖医療現場でも、私を含め皆ができることを探し、次年度に向け必要な改正、変革を模索中である。

生殖医療と家族援助 休載

岡崎 正明

本文でも書いたが、いろんな出会いや偶然が重なって、子どもが落語を習っている。もう8年ほどになる。月1の稽古から、年に1度の本番まで、横について我が子やその他の参加している子どもを見ていくと、実に面白い。少しずつ上達していく様子や、それぞれの子の個性がよく分かる。師匠の助言も、お客にいかに効果的に伝えるか。人物の心情をどう理解し、どう演じるとより良いのか。コミュニケーションの理屈や人間理解にも通じるものがある、こちらも興味深く聞かせてもらっている。



長年いると、同じ演目を昨年はAくんがやったけど、今年はBちゃんがやる、なんてこともしばしばだが、だからといって聞く方が飽きてしまったり、新鮮味がなくなるなんてことが全くないのが落語のすごいところだ。演じ手が違うだけで、登場人物のキャラも、話の世界観もずいぶん変わってきたりする。M-1のように斬新な展開や、

新たな発想で笑いを作るのもすごいが、100年以上変わらない話がずっと愛され、何度聞いても笑いが起こるというのもすごい。どっちが上とかではなく、種類の違う競技と思った方がいいんだろう。

立川談志は「落語とは人間の業の肯定」と言った。落語に出てくるのは、殿様、武士、町人、盗人、百姓、職人、女郎、年寄、若者、子どもなど、その時代を生きた人々であり、バカだったり、ケチだったり、嫉妬深かったり、義理人情にあつかったり。人間の持つ美しく高潔な面から、醜く薄汚れた部分まで、実に生き生きと描かれている。「そういう人、現代にもいるよね」「人間って、そういうところあるよね。私も…」と感じながら、そんなちっぽけな自分たちを笑い飛ばす。自己憐憫ともシニカルとも違う、どうしようもなさやありのままに受け止めながら、絶望せずに人を愛おしむ態度が、落語にはある気がする。

欧米の学校では演劇の授業があると聞いたことがある。様々な人物を理解し演じることが、相手への想像力や表現力を高めるのに役に立つのだという。確かに道徳の時間にお題目のように正論を伝えるだけよりも、演劇や落語を通して疑似体験でも誰かの立場を体験したり、見る人に如何に伝えるかを考えるのは、とても効果的なのではないだろうか。小中学校の授業に落語。ぜひ採用してもらいたいなあ。

役場の対人援助論 P103~

来須(らいす) 真紀

9月末に体調を崩し、半年が過ぎようとしています。早いものですが、療養しながら、半年間は、わが子としっかりと向き合う時間となりました。タイミングが良かったとは、言えませんが長女が学校への行渋りをしたり、習い事のことで悩んだりしました。口論になったり、喧嘩になったり、トコトン付き合ったり、病気で療養しているのに子どものことでこんなに心身をすり減らすなんて本末転倒だと正直おもうこともありました。

ただ、自分が今まで仕事を最優先してわが子に向き合ってこなかった、わが子に甘えていたということが引き金になっていただろうという思いもあり、償いの時間と考えることにしました。おかげさまで体調

もよくなり、4月から仕事に復帰できそうな気配なので、復帰したらわが子ももっと大切にしながら仕事したいと思っている次第です。本当子育てと仕事の両立は難しい…。つくづく制度の問題もあるけど周りの理解の問題だなと思う今日この頃なのでした。

教室の窓から P315~

工藤 芳幸

この年末年始から今日までであったという間に過ぎてしまいました。元旦に能登半島地震があり、毎日その報道に接していたことも影響しているでしょう。言語聴覚士の養成指定規則の改正が見込まれ、カリキュラム変更のための準備に追われていたこともあります(まだしばらくこの作業が続きます)。そして今年も朝から晩まで国家試験対策に時間を使いました。先日第26回言語聴覚士国家試験が終わったところ。この秋学期の学生と個別やグループ指導を数えてみると延べ110時間。空いている時間のほとんどを使って学生と問題を解いてもらい、学生に問いかけ、解説して毎日が過ぎていきました。明確な正答がある問題を繰り返し解いていく試験対策なので、大学での学びの本筋ではないかもしれませんが、この試験の可否は人生に関わるもの。大学生が社会に出ていくための後押しの仕事です。現在、多くの学生が一般入試ではなく、総合選抜型や指定校推薦を利用しており、受験勉強をしたことがない学生も少なくはありません。最後に国家試験が控えている場合は、全国一律の基準で合格判定がされますので、ここで初めて受験の壁に遭遇することになる学生たちが多大な苦勞をする様子を見てきました。最近、とうとう言語聴覚士国家試験のための塾が登場し、ビジネスにもなっています。4年間(3年制、2年制もありますが)の学びからごぼれ落ちてしまうのはなぜか。考えていかなくてはならない課題です。この4月から私立大学でも合理的配慮の提供が義務化されます。合理的配慮について執筆していましたが、今回は締め切りに間に合いそうにありませんので次の機会にしたいと思います。

みちくさ言語療法 休載

サトウ タツヤ 復活！

一度卒業した身ですが、帰って来た__対人援助学縦横無尽シリーズとして、復帰したいと思います。

コロナ後の様々な活動について ― 特に文化心理学の蓄積のうえにたった活動について一年一回くらい寄稿したいと思っています。

学部長職も3年が終了。心痛むことも無いとはいえないが、学生達が活動の場を拡げて成長していく姿には勇気づけられます。

帰って来た__対人援助学縦横無尽 P64～

山口 洋典

2024 年、元日に発生した令和 6 年能登半島地震で被害を受けた皆さんに謹んでお見舞い申し上げます。静岡県磐田市で 18 年育った私は、いつか来る東海地震を常に備えるようにと言われ続けてきました。そして大学進学でふるさとを離れて 1 年が経たずして、阪神・淡路大震災が発生しました。自分にも「何かできる」の思いで現地に駆けつけ、仲間と共に、そして被災された方々と共に、今よりもよりよい状態になるようにと、手と足と口と、そして気持ちを動かしていきました。

地震から程なく、1 月 3 日に高校時代の同窓会がありました。多くの方に不思議がられるのですが、3 年生ではなく 1 年生のクラスの仲間と恩師を囲む会で、オリンピック・パラリンピックの年に行うことが慣例になっています。今回、後期高齢者になられた恩師から、小説をもとにしたドラマ「グレースの履歴」を教えていただきました。妙にその意図が気になり、一気に鑑賞したところ、元日の地震も相まって、いつかやってくる自らの死に備えて自分の大切な人に何を残し伝えることができるのかを深く考える秀逸な作品で、いつまでたっても恩師は恩師だと、改めてその慧眼に敬意と感謝をいたしております。

PBLの風と土 P207～

小池 英梨子

ひょんなことから、産経新聞の夕刊に月 1 ペースで連載することになりました。その

名も「ねこから目線。の現場から」。マガジンの原稿も毎回泣きながら締め切りギリギリアウトで滑り込む私が、2つの締め切りを抱えてやっていけるのか。次回は3月23日だそうです。

そうだ、猫に聞いてみよう P182～

安發 明子

『ターラの夢見た家族生活』が一般発売された。対人援助で大切なことについて考える機会になる本だと思うので大学や地域の図書館で注文してください。

フランスの対人援助の現場で使われているお気に入りのツールを日本語訳し、ダウンロードして使えるように公開しています。是非チェックしてください。

<https://akikoawa.com/useful-links/>



フランスのソーシャルワーク 休載

尾上明代

休載

一宮 茂子

生体肝ドナーをめぐる物語 休載